

# 方面別指針の検討 (個票) 【西部】

## 西部

先端の学術機能・産業、ゆとりある住宅地、自然や文化等の多様な魅力を高め、つなぐなど、新たな価値やライフスタイルを先導する

### 将来像の検討に向けた論点

- 京都の西の玄関口として、どのような未来の可能性を追求できるか
- 近隣都市ともつながる地域中核拠点エリアなど、多様な地域の魅力と活力を高めるためには

### 方面の基礎的データ

※おおむね該当する行政区（右京区，西京区）のデータを掲載

用途地域	市街化区域面積のうち、各用途地域が占める割合 (%)	住居系	80 (うち、住居専用系：63)	商業系	6	工業系	14
※住居系：住居専用，住居 商業系：商業，近隣商業 工業系：準工業，工業，工業専用 ※全市平均の用途地域割合（各用途地域が市街化区域に占める割合）を上回るものに							

人口 右京区：194,215人 西京区：148,753人 資料)京都市「住民基本台帳(令和3年1月1日時点)」

住む場所と働く場所の関係 (昼夜間人口比率) 資料)総務省「国勢調査(平成27年)」を基に本市作成

右京区：0.82 西京区：0.59

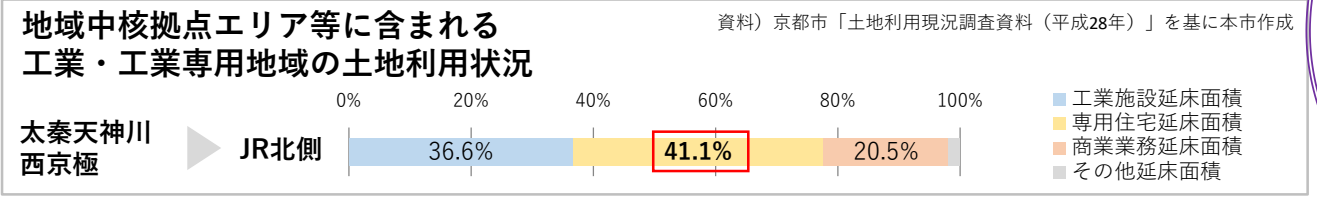
※就業者のみで算出 \*昼夜間人口比率=昼間人口/夜間人口であり、1未満は【区外に流出超過】

### 地域中核拠点エリアの特性

拠点 ※1	類型 ※2	用途地域上の特性 ※3	交通結節性 ※4	乗降客数 (千人) ※5	都心へのアクセシビリティ (分) ※6	生活利便施設の延床面積 (100㎡) ※7		社会動態 (人) ※8			全年齢
						店舗	医療	若年・子育て層の転出入の状況		計	
嵐山	文	住居系	阪・嵐・J	10,960	15	322	42	▲343	125	▲218	300
太秦天神川	交	工業系	地・嵐	8,661	10	593	63	341	▲12	329	492
西京極	交	工業系	-	7,641	6	1,509	37	697	▲75	622	819
桂	交	住居系	-	19,996	7	535	265	474	▲59	415	440
桂川 《市境》	交	住居系・商業系	-	11,224	8	1,658	4	795	315	1,110	1,382
洛西口 《市境》	生	住居系・商業系	-	4,936	11	1,333	2	163	395	558	1,498
洛西バスターミナル	交	住居系	(バスターミナル)	-	28	599	70	▲605	▲464	▲1,069	▲1,262

分譲マンション供給の状況 (発売戸数 (戸)) 資料)不動産経済研究所「全国マンション市場動向」

	右京区	西京区	乙訓地域	三島地域
H21～H25	1,060	95	168	12,418
H26～H30	807	223	1,541	8,226



- ### インフラ整備
- 【イ①】東西線延伸<二条～太秦天神川> (平成20年)
  - 【イ②】JR桂川駅開業 (平成20年)
  - 【イ③】向日町上鳥羽線開通<国道171号～葛野大路> (平成25年)
  - 【イ④】京都縦貫自動車道 第二外環状線<沓掛IC～大山崎JCT・IC間>開通 (平成25年)
  - 【イ⑤】阪急京都線(洛西口駅付近)高架化完成 (平成28年)
  - 【イ⑥】都市計画道路整備<JR向日町駅東側> (事業中)

- ### 地域のまちづくり方針等
- ※「◎」は地域まちづくり構想に位置付けている地域
- ◎【地①】京都市山ノ内浄水場跡地活用方針 (平成22年)
  - ◎【地②】大原野「地域ブランド戦略」 (平成27年)
  - ◎【地③】西京区・洛西地域の新たな活性化ビジョン (平成28年)
  - ◎【地④】洛西ニュータウンアクションプログラム (平成29年)



- (凡例)
- ◎：広域拠点エリア
  - ◎：都市機能誘導区域
  - ◎：地域のまちづくり方針等
  - ◎：各方面の想定範囲イメージ
  - ◎：地域中核拠点エリア
  - ◎：京都市営地下鉄
  - ◎：日常生活エリア
  - ◎：ものづくり産業集積エリア
  - ◎：緑豊かなエリア
  - ◎：自動車専用道路・高速度道路
  - ◎：大学
  - ◎：世界文化遺産
  - ◎：主要活用検討地(市有地)
  - ◎：市営住宅
  - ◎：(国・府有地)
  - ◎：(旧地再生事業に着手しているもの)
- ※小中一貫教育校は、令和7年開校予定

(地域中核拠点データの注記)

※1 駅から半径500m圏内に含まれる複数の調査地区(※)を集計エリアとして設定\*市中心部の元学区(明治期の通学区、面積25ha、人口約4,000人)を標準にして、京都市独自で設定

※2 持続可能な都市構想プランの類型(交：交通結節・賑わい型、文：文化・大学・観光型、生：生活拠点型 ※複合的な特性を持つエリアは主な類型に区分)を表記

※3 全市平均の用途地域割合(各用途地域が市街化区域に占める割合)を上回るものを参考に主なものを設定

※4 乗り入れが2路線(地：地下鉄、阪：阪急、京：京阪、観：観山、嵐：京福、近：近鉄、J：JR、B：バスターミナル)以上の場合に表記

※5 資料：京都市「京都市統計書(令和元年度)」

※6 地下鉄「四條烏丸駅」までのアクセシビリティ ※乗り換え時間は含まず

※7 資料：京都市「土地利用現況調査(平成31年1月1日現在)」

※8 資料：京都市「住民基本台帳 ※前年1月から前年12月末までの暦年計を示す」を基にH26～H30の社会動態を京都市にて集計 ※外国人・市内移動を含む